

通知表の学習評価について

通知表の「学習の記録欄」に記載する学習評価は、「観点別評価」と「評定」から構成されています。それぞれ次のようなものです。

1 観点別評価

①「知識・技能」 ②「思考・判断・表現」 ③「主体的に学習に取り組む態度」の各観点について、それぞれA・B・Cの3段階で評価します。

A	十分満足できる
B	おおむね満足できる
C	努力を要する

Q 何をどうやって評価するのですか？

A 評価する材料（評価規準）が單元ごとに定められています。テスト、作品、観察等様々な方法で評価します。

(例) 知識・技能…正負の数の加減乗除ができる⇒主に小テスト・定期テストで判断
 思考・判断・表現…鎌倉幕府滅亡の原因を元寇の影響、幕府と朝廷の関係、武士の生活や社会の変化などから多面的多角的にとらえ、適切に表現できる⇒主に論述問題、レポートの記述などから判断
 主体的に学習に取り組む態度…準備運動で手を抜かずに取り組むとともに、遠くへボールを投げる動作について他者から学び試行錯誤している⇒主に観察により判断

Q A・B・Cはどうやって決めているのですか？

A 各観点でA・B・Cの達成度を設定し、それに基づいて評価を出しています。

(例) 達成度80%以上⇒A 50%以上⇒B 50%未満⇒C

※ 課題の難易度や求める能力などによって基準は上下することがあります。

2 評 定

学習活動全般を総括的に判断して、5段階(5・4・3・2・1)で算出したものです。

5	十分に満足できるもののうち特に程度の高いもの	A
4	十分満足できる	
3	おおむね満足できる	B
2	努力を要する	C
1	一層努力を要する	

高校入試の際に高校に提出する調査書には、1～3年生の評定が記入されます(県公立高校のすべてと多くの私立高校)。

Q 「観点別評価」と「評定」はどのような関係になっていますか？

A 文科省・国立教育政策研究所は次のように示しています。

「A・A・A」の場合は、「4」または「5」

「B・B・B」の場合は、「3」

「C・C・C」の場合は、「2」または「1」

それ以外の組合せ（AABやBBCなど）の場合は適切に総括して判断します。

※ BBBを除くと、観点別評価の組合せが同じでも、それに対応する評定は複数あります。

Q 観点別評価の組合せが同じなのに、評定が異なるのはどうしてですか？

A 例えば同じAでも達成度には大きな幅があるからです。（B・Cも同様に幅がある）

＜観点ごとの達成度と評価の関係＞ 達成度の区切り目はあくまでも例です

達成度%	80		50	
評価	← A →	← B →	← C →	

＜総合達成度と評定の関係＞ 達成度の区切り目はあくまでも例です

総合達成度%	90	80	50	20	
評定	5	4	3	2	1

＜観点別評価と評定の関係＞ あくまでも評価の出し方の一例です

	観点1	観点2	観点3	総合達成度	解 説
信長	9 5	9 7	9 3	9 5	●信長さんと秀吉さんの比較 ともに「AAA」ですが、総合達成度が異なるため評定に違いがあります。
	A	A	A	5	
秀吉	8 4	8 2	8 3	8 3	●秀吉さんと家康さんの比較 観点別評価の組合せは異なりますが、総合達成度で見るとともに評定が4になります。
	A	A	A	4	
家康	8 6	8 8	7 5	8 3	●家康さんと慶喜さんの場合 同じ「AAB」ですが、総合達成度が異なるため評定に違いがあります。
	A	A	B	4	
慶喜	8 0	8 2	6 0	7 4	
	A	A	B	3	

学年末評定(調査書に記載される成績)について

- 各学期の評定を基に総合的に判断します。

例えば各学期の評定が「4・4・4」ならば学年末評定は必ず「4」になります。

また「4・5・5」の場合には、4か5、「4・3・3」なら4か3のどちらかになります。必ずしも出現率の高い評定になるとは限りません。

以上が原則となる考え方ですが、教科や単元の特性等によって当てはまらない場合もあります。